

「とっとり食べきり協力店」モデル事業アンケート結果について

平成 26 年 8 月
鳥取県循環型社会推進課

1 アンケート概要

モデル事業の協力店として登録された30店舗に対し、平成26年7月中の取組状況や食べ残し削減の効果等についてアンケートを実施し、10店舗から回答が得られた。

2 回答結果と評価

- 食品廃棄物は、「%は不明だが削減できた」が6店。実感として、「環境に配慮する店舗であることをPRできた」「従業員の環境や食べ残し削減への意識向上」の効果があったと半数以上が回答していることから、「**食べきり運動**」に**一定の効果**ありと認められる。
- 「効果なし」と回答した2店も含め、本年秋頃からの全県展開について、引き続き「参加する」と9店が回答しており、**取組への好意的な関心、意欲**が窺える。
- なお、食品廃棄物を焼却している8店のうち、「資源ごみとして出せることを知らなかった」「資源化できる業者を知らない」が3店あり、**事業系生ごみのリサイクルの余地がある**と推定される。

○取組の効果

- ・食品廃棄物は、「%は不明だが削減できた」6店に対し、「削減されなかった」3店。
- ・事業参加による実感された効果としては、「環境に配慮する店舗であることをPRできた」4店、「従業員の環境や食べ残し削減への意識向上」4店、「廃棄物処理費用の低減」1店（複数回答有）。「効果無し」は2店。
- ・利用者の反応については、「小盛メニュー等利用者の増」3店、「利用者からの食品ロスに関する質問等の増」2店（複数回答有）。「変化なし」は5店。

○小盛メニュー等の利用者の変化

- ・全来店者のうち、「小盛メニュー等」の希望者は「1割程度」までが5店。そのうち、モデル事業実施による「利用者増」は2店、「変わらない」3店。

○引き続きの取組への参加

- ・取組を継続する意向である「参加する」が9店。

○食品廃棄物のリサイクル

- ・資源化（堆肥化等）の1店に対し、焼却が8店。焼却の理由としては、「分別が面倒」「保管場所がない」が4店、「資源化できる業者を知らなかった」「資源化できることを知らなかった」は計3店。

○ポスター等の改善点

- ・卓上ポップは、「情報を絞っても内容を強調するよう字を大きく」が3店。

○意見等（自由記述）

- ・開店時から小盛セットメニューは人気があった。残したくないお客から小盛の声をかけてくれる。値引きできる商品もあり、客と店とのいい関係だと思う。
- ・セルフサービスのため、食べられる量だけ入れてくださいと声かけしている。
- ・持ち帰りの声かけをしている。